聖霊降臨後第９主日　　２０２４年７月２１日

風のように

甘木教会

牧師：竹田孝一

「彼らを牧する牧者をわたしは立てる。群れはもはや恐れることも、おびえることもなく、また迷い出ることもない」と主は言われる。　エレミヤ23:4

イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。

マルコによる福音書６：３４

預言者エレミヤは、滅びゆくイスラエルの民に「『彼らを牧する牧者をわたしは立てる。群れはもはや恐れることも、おびえることもなく、また迷い出ることもない』と主は言われる。23:4」と予言します。そして、今、預言は成就します。「イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。」

現代、社会は急激に変化し、その課題は大変に複雑になり、将来がどうなるか分からない不安に満ちた中に生きています。「**飼い主のいない羊のような**」有様が私たちではないでしょうか。どう生きて良いのかという生きづらさがあります。若者も、老人もすべての世代においてあります。私たちは、限界を感じています。しかし、「彼らを牧する牧者をわたしは立てる。群れはもはや恐れることも、おびえることもなく、また迷い出ることもない」という主の御言葉は、激変し、不安の日々を送る現代人、私たちに貫かれています。

飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみとあるように私たちに寄り添ってくださるイエス・キリストが今こそ、今だから舟から上がり、大勢の群衆を見てくださっています。

しかし、多くの情報が入り、色々な価値観が入ってきて、特に物質主義、エゴイズムが私たち信仰者の生き方を、「そういっても」という限界状況に追いやっています。忙しく変化する時だから私たちは、「6:31 イエスは、『さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい』と言われた。」イエスの言葉のように一旦、静かに退く時がイエスさまのみ言葉に従うことが大切ではないでしょうか。

雨宮慧司祭は次のように語っています。

「休む（アナパウオー）はアナ〈後ろへ〉とパウオー〈終わらせる〉の合成動詞ですから、『現場から退いて休む』ことを表します。

豊作に恵まれた金持ちは、倉を建て直して大きくし、そこに作物をしまい込んで、『一休みして』食べたり飲んだりして楽しもうと考えます。しかし、神の目にはこの農夫は愚か者と映ります。死すべき人間が神や隣人なしに自己中心に生きるなら、真の安らぎは逃げ去るからです。

まことの安らぎは物資ではなく、愛に基づく慰めから生じます。ですからイエスは、重荷を負って疲れた者に『休ませてあげよう』と語ります。イエスのもとに行くとき、わたしたちの命に無関心ではいられない方に出会えます。この出会いが人に安らぎを与え、人を生き返らせるからです。

そこで、この語は『元気づける』の意味にもなります。・・

今週の福音では、食事をする暇もない弟子たちに、人里離れた所へ行って『休む』ようにイエスは勧めます。それは骨休めのためではありません。人里離れた所とは、イエスが祈った場所であり、神とのかかわりを確認する場でした。そこに憩うとき、人の魂は生きる力を与えられます。」（「小石のひびき」雨宮慧　女子パウロ会）

今こそ、私たちは神さまと出会い、勇気づけられ、生きる力を与えられる、ここにこそ私たちのすべてがあります。

大変化し複雑な現在社会にあっても私たちは疲れないのです。前を目指すことのできる者とされるのです。

6: 53 こうして、一行は湖を渡り、ゲネサレトという土地に着いて舟をつないだ。 54 一行が舟から上がると、すぐに人々はイエスと知って、 55 その地方をくまなく走り回り、どこでもイエスがおられると聞けば、そこへ病人を床に乗せて運び始めた。56 村でも町でも里でも、イエスが入って行かれると、病人を広場に置き、せめてその服のすそにでも触れさせてほしいと願った。触れた者は皆いやされた。

イエスを中心とした弟子たちは忙しく働きだします。以前とは違う出来事が起きています。神に出合って、再び、弟子は勢いが与えられます。**もはや恐れることも、おびえることもなく、また迷い出ることもない**姿が見えてきす。「悔い改め」は、自分が向いている方向から180度向きを変えるということでした。私たちが自分ばかりを向くのでなく、私たちが天に向く神へ、イエスに向く、ここに世の限界を超えて奇跡の神の、イエスの出来事を見ることができます。

飼い主のいない羊のような私たちを「**牧する牧者がわたしに立てられ、群れはもはや恐れることも、おびえることもなく、また迷い出ることもない**」者とされる現実が起きます。

この小さなものを大きくされる神の事実を私たちが生きていく中で起きてくるのです。なぜなら、私たちが起こすのではないのです。イエスさまが、神が起こされるのです。わずかな物を天に仰ぎ、イエスさまは、**讃美の祈りを唱え**られたのです。**讃美の祈り**とはなんでしょうか。人間の思いを超えて起きてくる神の出来事の素晴らしさを讃美する祈りであり、神は奇跡を起こされるのです。

世代に関係なく、現代、社会は大変に複雑になり、将来もどうなるか不安満載の中で、限界状況に私たちは生きています。神の、イエスの奇跡の出来事を通して聖書がどうしても書き留め、現代の私たちに伝えたかったのは**あなたたちは飼う者のない羊でなく、牧され、もはや恐れることも、おびえることもなく、また迷い出ることもない**ということではないかと思うのです。

イエスのもとへ招かれている幸いが今、ここにおります。

日毎の糧

死の陰の谷を行くときも、わたしは災いを恐れない。
あなたがわたしと共にいてくださる。　詩篇２３：４

ルターの言葉

どうか、私たちのすべての者のために死んでくださった主、私たち自身よりも、・・・・・私たちのもちものすべてにまさって価値ある主にあって慰めを与えてください。私たちが生きるにも死ぬるにも、貧しくとも富んでいようとも、たとえどんな状態の中にいようとも、私たちは主のものです。　　『ルターの祈り』　石居正己編訳　聖文舎

そろそろ

そろそろお迎えが近いと感じてくるようになった。この頃のつぶやきは「そろそろ」ということである。

それは、とても大切なことではないだろうかと思うようになった。「コヘレトには意図があるのです。『死ぬ日は生まれる日にまさる ７：１』とは、生きるよりも死ぬ方が良いという意味ではなく、むしろ人生は死によって終わるということをきちんと受け止めた言葉です。ここでコヘレトが言わんとするのは、生きる者は死を認識することによって、生きることの意味に気づかされるということ・・」（「ヘレトの言葉を読もう」小友聡著　日本キリスト教出版局）

死の陰の谷を行くときも、わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。　詩篇２３：４

この祈りも、死の怖れから逃れようという祈りでなく、生きていこという強さを語っているように思う。たとえどんな状態の中にいようとも、主は私たちと共に歩んでくださっている。さあ、生きようと聞えてくる。

祈り：私たちの人生を貫かれる神の導きに感謝しつつ、生きる意味に気づかされる日々となりますように。アーメン。

牧師室の小窓からのぞいてみると

ブラジルにいるとき、夏になると長い休暇が始まった。そのとき、だからブラジルはだめなんだと私は思っていた。しかし、５０年経ち、今になると休むことは次に繋がる大切なものなんだと思うようになった。

日本は、まだまだ社会の仕組みにしても働くことを前提としている以上、休むことは難しい。何よりも社会の仕組みを変えなければならないと思う。

園長・瞑想？迷走記

夏休みの勤務表を作っている。今までは息子の園長補佐に任させ、こちらの要望だけを伝えて、作ってもらっていた。園も変わりすべてを自分がしなければならなくなった。「休む（アナパウオー）はアナ〈後ろへ〉とパウオー〈終わらせる〉、『現場から退いて休む』」ということであり、保育者の魂が生きる力を与えられ、二学期にむけて元気にされるといことを基本にしてきた。できるだけ休みをとってもらおうと勤務表を作っていったのだが、経済的に小さな、保育者の少数の現実、保護者の現実と向かい合いながら、この勤務表の作成がどんなに難しいものかと再確認している。そして、色々なことが再び見えてきた。

しかし、休むことは次への保育へ繋げられ、子どもたちへの充実した養育へ向かう。出来るだけ休みをとってもらうようにしたが、１００点の勤務表ではない。まだまだ幼稚園運営を改善しなければいけないことばかりが見えてきた。

「6:31 イエスは、『さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい』と言われた。」イエスの言葉が聞えてきた。

前の園で勤務表を作ってくれていた息子にも感謝。

甘木通信

国際基督教大学出身の聖職者、牧師の手記、「われら主の僕　リベラルアーツの森で育まれて」という本には示唆を受ける手記が多くある。その中で息子二人が10年間、通った自由学園と関係ある方々がいた。息子の英語の教師であった新井偉作という方がおられ、そののち教師を辞し、紆余曲折の中で牧師となり東日本大震災に出合います。

「東日本大震災の半年後、被害甚大な名取市で教会牧師として一人立ちをしました。地域全体が大混乱でした。最初の働きは津波で亡くなった方々のご葬儀です。新牧師で何も分かりません。しかしこの職務は天来の使命、不思議と不安は感じませんでした。大袈裟ですが、この記事で紹介した事柄の一つが、現在のこの道へと繋がっていました。ここまで何度『偶然』『不思議』と書いたことでしょう。私の人生の犠牲そのものです。しかし人の目には不思議と映ることが、実は神さまの手によって紡がれ、備えられています。右も左も分からない弱い私も、その時々に必ず支えられ、導かれここまで来ました。」

父・新井俊次牧師はアジアと日本を結ぶ働きをされた。私の神学生の時代は古屋安雄牧師と一緒に国際基督教大学教会の牧師をされていたと思う。全てに時があり、父と同じ道を継ぐのだと思う。子育て、焦らず時を待つことが神への謙虚であろう。

（甘木日記）土）集団博多山笠見に家内と行く。いつまで一緒におれるかもしれない時間を楽しむ。甘木聖和幼稚園運営総会の資料を作る。日）甘木教会に。礼拝中、大雨の音で声が通らない。午後から総会資料を印刷。久留米まで送っていただく。家内の足を揉みながら細くなったと感じる。月）追い山笠のために臨時電車が出ている。来年はこれで行こう。雨が止まない。休みだが週末幼稚園で時間を取られるので主日の準備。火）「キリスト教保育」の雑誌を本屋さんが届けて下さる感謝。夏の勤務表の作成開始。水）週報データが壊れて最初からやり直す。明日の一泊保育へむけて準備。木）「風のように」のデーターも壊れやり直し。一泊保育開始。金）一泊保育、最終日。帰宅後、役員会準備。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）日頃はうるさいと感じる家内だが、この頃、いつまでこの人と一緒におれるのだろうかと思うことが多くなった。彼女には申し訳ないと感謝である。もう死語となっている「牧師夫人」らしい牧師夫人である。若い牧師が「牧師夫人」という言葉を否定するような言葉を言うと寂しくなる。彼女には人生は教会のためと迷いが感じられない。

今は出来るだけ二人でといようと自分が行きたい所に連れて行きたいと思うようになった。コヘレトの言葉に「空しい人生の日々、愛する妻と共に楽しく生きるが良い9：9」く。集団博多山笠見に家内と行く。日）甘木教会に。車中、大石堰作り、農民の生活に寄添った５庄屋の物語、「水神」を読みながら、まだ、まだ何もしていない自分に反省をする。礼拝中、大雨の音で声が通らない。午後から総会資料を印刷。夕刻、信徒さんに久留米まで送っていただく。牧師だった方の娘さんである。我が子らもこんな気配りをしてほしいと願う。家内の足の調子が悪いというので足を揉みながら体全体が小さく細くなったと感じる。そう思いながら心から喜んでいない自分にまだまだと思う。月）休日だが、週末は

キャンプなど時間を取られるので、朝から主日の準備。引退したらドイツ語、ラテン語を毎日読み、聖書と向かい合おうと思っていたが、思っているだけではいけないと反省。教会前を通る山笠見学、草取り、家内のオルガン練習で甘木へ。火）キリスト教書店の店主が本を届けに来てくださる。本当に助かる。東京にいれば書店に行けばよい。経営的に大変のようである。アマゾンなどで若い牧師らは購入するが、書店を苦しめているのかな？夏の勤務表、キャンプの準備と忙しくなる。病人が出て人で足りなくなり家内に頼む。帰宅は21時を越す。水）一学期の終園式。ホットはするが、これから長い夏休みに入り、盆休み、研修を除き、幼稚園に出て行くになる。夏の勤務表は出来るがまだまだ改善余地がある。年長の一泊保育の最終打ち合わせ。木）早朝から主日の準備。作ったデーターが壊れている。昨日もあった。年長の一泊保育開始。大森幼稚園ではただ参加するだけで良かったが、手伝いが必要になる。家内も夕食を作りに来てくれる。子どものシャツを洗濯・乾燥にコインランドに。最後は、職員室の床の上に貸布団をひき泊まる。夢は悪い。金）最終日。よく、動く。いつまでもあると思うな親と健康か。